

平成 21 年度「基礎・基本」定着度調査の結果を公表します

県教育委員会では、県内小・中学生の基礎学力（社会生活を営むうえで最低限必要な知識や技能等）がどの程度定着しているかを調べるために、毎年1月に、小学校5年生、中学校1・2年生を対象に「基礎・基本」定着度調査を実施しています。

市教育委員会では、市内の児童生徒の学力状況を知っていただくために、この調査の結果を市民の皆さんにお知らせします。なお、市教育委員会では、本調査の結果を踏まえて、今後も各学校とともに児童生徒の学力向上に一層努めていきたいと考えています。

■「基礎・基本」定着度調査のねらい

県内すべての小・中学校が調査結果を基に自校の課題を明確にし、個に応じたきめ細やかな指導方法の改善・充実を図るために実施するものです。

■「基礎・基本」定着度調査の結果（平成 22 年 1 月実施）

□各学年の教科別の正答率（％）

学年	教科	国語	社会	算数 数学	理科	英語
小5	鹿屋市	◇73.6	◇71.5	◇66.9	◇76.9	
	肝属地区	73.2	70.6	65.4	75.4	
	県全体	73.3	69.1	66.0	73.6	
中1	鹿屋市	◇72.1	◇63.8	◇71.0	55.6	◇69.5
	肝属地区	71.5	63.1	69.8	55.8	68.4
	県全体	72.4	63.3	69.7	57.0	70.0
中2	鹿屋市	◇72.3	◇58.5	◇61.4	◇58.0	◇61.4
	肝属地区	71.8	58.0	60.2	57.4	60.7
	県全体	73.7	58.9	63.2	59.5	62.5

◇は県平均を上回った教科、◇は地区平均を上回った教科

- 小・中学校ともに、3年連続前年度を上回る結果となっています。
- 小学校＝昨年度に引き続きすべての教科で県平均を超えており、概ね定着が図られています。教科別では、理科、社会が特に伸びています。
- 中学校＝県平均とほぼ同程度であり、中1の社会、数学が県平均を上回っています。基本的な知識・技能の通過率に比べ、活用する力の問題への対応が十分ではありません。

□各教科で特に伸ばすべき学力等

教科名	各教科で特に伸ばすべき能力
国語	○文章を正しく書くために、文章を構成する力や効果的に表現する力 ○説明的文章を論理的に、筋道を立てて読み取る力 ○文法、漢字などの言語に関する知識・技能
社会	○地理的分野の基本的な用語等についての知識と理解 ○資料から情報を読み取ったり、計算したりして、出来事を関連づけて解釈する力 ○複数の資料を比較・検討した結果をもとに、根拠を明らかにして自分の考えを記述する力
算数・数学	○文章題から数量関係の式を読み取る力 ○数量の関係を図や式に表し、規則性の考え方を生かしながら問題を解決する力 ○事象やグラフから数量の変化を読み取り、判断する力
理科	○基本的な用語等に関する知識、観察・実験に関する正しい技能 ○学習したことを日常生活と関連づけて、確かな概念形成を図る力 ○実験結果から推論したり、根拠となる事柄から結論を導き出したりする思考力
英語	○基本的な語句や文法等に関する基礎的な知識及び活用する力 ○既習事項を用いて身近な話題について表現する力 ○比較的に長い英文を読んで、その概要をつかむことができる力

■「基礎・基本」定着度調査結果に対する手だて

□昨年度の取組

調査終了後、職員研修等で自校の児童生徒の誤答傾向などについて分析を行い、定着が不十分な内容については、補充指導や個別指導を行い、再度定着を図りました。

□今年度の学力向上の取組

各学校は、定着が不十分であった内容を中心に、「鹿屋定着トレーニング」を通して、反復指導や補充指導などを徹底して行い、基礎・基本の確実な定着に取り組みます。

□家庭での学習習慣

学校で学んだことを定着させるためには、家庭学習は欠かせません。市では、「かのかや宅習1・2・3運動」を推進し、保護者と連携しながら学習習慣の形成を図るなど、家庭学習の充実に取り組み、児童生徒の学力の向上を目指します。

【問い合わせ】市学校教育課（6階）0994-31-1137